

進化した技術ヒントに

オープニングセッション



【ブダペスト＝阿部真莉映】
欧州アスファルト舗装協会（EAPA）と欧州アスファルト協会（Eurobitume）の共催で、4年に1度開かれているアスファルト道

ハンガリーでE & E国際会議

道建協調査団が参加

路に関連する「E & E国際会議」の第8回会議が現地時間の19日、ハンガリーのブダペストで開催された。舗装材料や施工方法などについて、21日まで論文発表や討議、技術展示が行われる。日本からは日本道路建設業協会が派遣した調査団のメンバー15人が参加している。

オープニングセッションでは、欧州アスファルト協会のパベル・クリス会長が「（会議では）重要なトピックスを多く用意している。ワークショップやディスカッションに、ぜひ参加してほしい」と述べた。



調査団のメンバー

続いて、EAPAのリーフ・ポンプ会長は「活発にディスカッションしてほしい。素晴らしい会議になることを祈

っている」と呼び掛けた。

会議の開会に当たり、日本調査団の野尻和秀団長（NI PPOエンジニアリング部長）は「調査団の参加は8年ぶりだ。社会的な要望事項が変化する中で、最新の進化した技術に触れることのできる機会であり、技術を日本に持ち帰ることを期待している」と述べた。また、「カーボンニュートラルや持続可能性などがキーワードとなっている。合材工場での再生可能エネルギーの利用など、他国の取り組みがヒントになるのではないかと会議で着目するポイントを語った。

